



# 二つの特報部

犬伏崎への遊覧鉄道を前身に一九三三年、開業した銚電。昭和期に年間二百五十万人を超えた乗客は平成には百万人を切った。車の普及、人口と観光客の減少が影響した。そして当時の社長が一億円超を着服し、二〇〇六年に逮捕された。補助金や金融機関の融資は打ち切り。そこに線路や踏切の改善、車両の検査、修理の費用がのしかかった。危機を救ったのが、同社が販している「ぬれ煎餅」。「電車の修理代を稼ごうたい文句が評判になり、一晩で三件を超える注文が殺到した。ただ、今でもぬれ煎餅類の敵しい経営は変わっていない。そしてコロナ禍。映画「電車を止めるな」をクラウドファンディングで集めた資金で制作して公開。この収益と「自虐ネタ」のネット販売、行政の補助金がコロナ対策だ。竹本さんは「危機を突って乗り越えよう」という姿勢の方が柔軟なアイデアが浮かぶ。鉄道を存続させて地域に恩返りする。そのために真剣に必死に話

## 少子高齢化 伸びない通勤通学需要

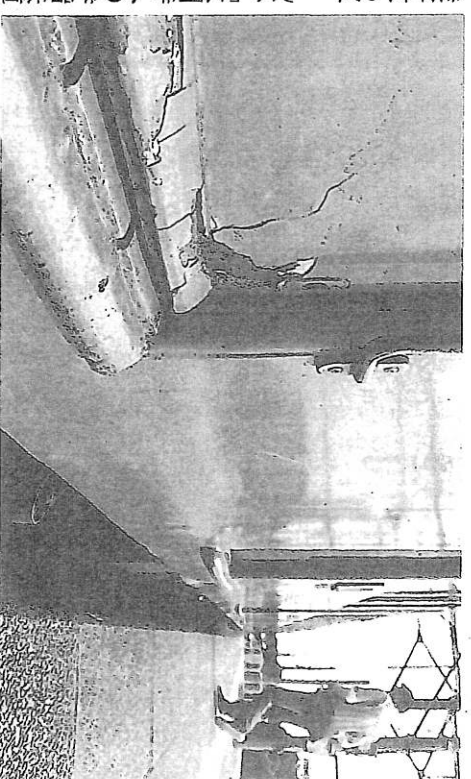
# 自助努力での綱渡り限界

敵しいのは銚電だけでは「四月以降、乗客数も収益も前年の五割まで減った。その後は徐々に持ち直したが、テレワークを続けなくなった後の四月六期、広島電鉄（広島市中区）は、鉄道やバスなど運輸部門の営業収益が、前年同期比47・9％減。富士急行（山梨県富士吉田市）も、運輸部門の営業収益は同75・1％減まで落ち込んだ。国土交通省の八月末時点のまだめでは、全国の中小鉄道会社百四十二社で、八月の輸送人員が前年より「30％以上減」だったのは51％。うち「50％以上減」は18％を占める。九月と十月の見通しでも五、六割が30％以上減だ。



①銚子電鉄が売出した「ぬれ煎餅」②や③「中古の中古」車両にはごも自走④感強めカシ（左）などの商品⑤いづれも千葉県銚子市で

「四月以降、乗客数も収益も前年の五割まで減った。その後は徐々に持ち直したが、テレワークを続けなくなった後の四月六期、広島電鉄（広島市中区）は、鉄道やバスなど運輸部門の営業収益が、前年同期比47・9％減。富士急行（山梨県富士吉田市）も、運輸部門の営業収益は同75・1％減まで落ち込んだ。国土交通省の八月末時点のまだめでは、全国の中小鉄道会社百四十二社で、八月の輸送人員が前年より「30％以上減」だったのは51％。うち「50％以上減」は18％を占める。九月と十月の見通しでも五、六割が30％以上減だ。



「四月以降、乗客数も収益も前年の五割まで減った。その後は徐々に持ち直したが、テレワークを続けなくなった後の四月六期、広島電鉄（広島市中区）は、鉄道やバスなど運輸部門の営業収益が、前年同期比47・9％減。富士急行（山梨県富士吉田市）も、運輸部門の営業収益は同75・1％減まで落ち込んだ。国土交通省の八月末時点のまだめでは、全国の中小鉄道会社百四十二社で、八月の輸送人員が前年より「30％以上減」だったのは51％。うち「50％以上減」は18％を占める。九月と十月の見通しでも五、六割が30％以上減だ。

## 「インフラ→公で支援 サービス面→民間の形に」

産業などで稼ぎ、地方を支援してきた」と指摘する。そんな経営が成り立ったのは、戦後の日本経済が成長を続け、人口増加も見込めたから。ところが今は少子高齢化。さらにコロナ禍が追い打を掛けた。宇都宮さんは「今回も『公共サービス』として運行を止めるわけにもいかなかった。乗客の減少や割引き運転で打撃を受けたのに、雇用調整助成金をもらえないケースもある。公共性を背負わされているのに、経営難は自分で乗り切れど矛盾を押しつけられている」と語る。そして宇都宮さんは「もう各社の自助努力では持たない。安全への投資が足りない。安全になっては大変だ。線路など土台部分は公のお金で支え、運行やサービスを民間でまかなう形にしてはどうか」と提案する。

### トスグマ手

一度だけ、銚電に乗るために銚子を訪ねたことがある。外川駅まで行き、乗ってきた電車でそのまま折り返した。同じような乗客が何人もいた。愛されているローカル線で、よく見る光景だ。売店で見られているぬれ煎餅も、いくつか買った。ほかの乗客もたくさん買っていた。(裕) 2020.10.8